

7月18日(金) 9:30~11:30 C会場

10. 尊厳と安全をどう守るか～介護・医療現場における転倒・転落と身体拘束～

座長：杉山良子(RoomT2 転倒転落研究会)
島村弘宗(国立病院機構仙台医療センター
医療安全管理室長)

- (1) 私たちは何を守りたいのかー患者家族を含めたみんなの力で取り組む身体拘束ゼロ化へー
笠松 奈津子(手稲溪仁会病院TQMセンター
医療安全管理室)
- (2) 慢性期病院における転倒転落と身体拘束 抑制に頼らない看護
梅津光香(定山溪病院看護部長)
- (3) 精神科看護(領域)における行動制限最小化の取り組み
吉川隆博(東海大学医学部看護学科教授)
- (4) 医療機関等における転倒・転落事故の法的責任
伊藤佑輔(伊藤佑輔法律事務所)

7月19日(土) 14:10~16:10 K会場

11. 在宅医療における地域連携・薬薬連携

座長：赤瀬朋秀(日本経済大学大学院経営学研究科
教授)
西村康人(国立病院機構仙台医療センター
薬剤部長)

- (1) 地域医療におけるアライアンスの実践にむけて
赤瀬朋秀(日本経済大学大学院経営学研究科教授)
- (2) 地域医療の持続可能性を目指した在宅専門薬局の役割
片岡雅人((株)HASC事業団事業統括部長)
- (3) 地域における薬局と福祉との連携
鈴木 すみれ(株式会社なの花東北)
- (4) 地域における病院薬剤師の役割～地域連携を通して私たちが出来ること～
大内 友季江(光ヶ丘スペルマン病院薬剤科)
- (5) 地域医療における役割～在支診薬剤師の立場から～
南郷大輔(医療法人創福会ふくろうクリニック
等々力薬剤部)

7月19日(土) 8:00~10:00 J会場

12. 特定行為研修修了者の活動を推進するためには

座長：澤田真樹(国立病院機構本部医療部サービス・
安全課)
安藤肇史(国立病院機構宮城病院院長)

(1) 看護管理者の立場から

佐藤由紀(日本海総合病院副院長兼看護部長)

(2) 特定行為研修修了者の活動推進に向けた取り組みについて

川井和哉(近森病院院長)

(3) 病棟常駐型チーム医療のススメと特定行為研修修了者の活躍

佐久間 徳子(地域医療機能推進機構仙台病院)

(4) 特定行為研修修了者としての実践者の立場から
新井 茂登子(訪問看護ステーションあらい)

7月19日(土) 10:10~12:10 J会場

13. 人生の最終段階における意思決定支援～医療・
ケアのあり方～

座長：新倉 仁(国立病院機構仙台医療センター
副院長)

寺島敦子(仙台市立病院副看護部長)

(1) がん患者のためのアドバンス・ケア・プラン
ニング～年代や身寄りの無い人への配慮～

上村恵一(斗南病院精神科長)

(2) それぞれのACPー超急性期の環境の中でー

齋藤 美香子(国立病院機構仙台医療センター
看護師)

(3) 病院における認知症高齢者の意思決定支援の
現状と認知症看護認定看護師が感じる課題

西川菜央(国立病院機構仙台西多賀病院看護師)

(4) 地域とつなぐ意思決定ー介護支援専門員の立場
からー

大城京子((株)Old-Rookie居宅介護支援事業所・
快護相談所和び咲び副所長)

7月19日(土) 10:10~12:10 C会場

14. 新興再興感染症に対する備え

座長：西村秀一(国立病院機構仙台医療センター
ウイルスセンター長)

(1) 次のパンデミックへの病院の備え

押谷 仁(前東北大学大学院教授)

(2) ダニ媒介性ウイルス性出血熱、重症熱性血小板
減少症候群の発見と治療・予防法開発

西條政幸(札幌市保健福祉局医務・保健衛生担当
局長)

(3) 昆虫媒介感染症とその対策～ウイルス感染症を
中心に～

高崎智彦(前神奈川県衛生研究所長・BML顧問
前国立感染症研究所室長)